

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校
第2学年理科資料

こんにちは。動物園の「幅崎」です。9月に入り季節も移り変わり涼しい日が続くようになりましたが、夏休みの宿題で身につけた観察力を生かしていますか。今日は、なぜか「は虫類館」で飼育している「コウモリ」の秘密についてです。



暗いやみの洞窟や森で不気味に舞う黒い生き物というと「コウモリ」ですね。小型のコウモリは、昆虫食のものが多いのですが、円山動物園で2頭飼育してる「インドオコウモリ」は、南アジアなどに住んでいて果物や木の実などを食べる草食性の動物です。昼間でも活動していますが、本来は夜行性でレーダーのように自分の発する音が跳ね返ってくるのを感じながら暗闇でも自由に飛行できます。

さて、その顔を見てみましょう。何となく別の動物と似ていませんか。周囲にいたお客様に声をかけてみたらキツネ、ネズミ、イヌなどの答えが返ってきました。そうです、彼らはほ乳類なのです。ですから翼も鳥



類の羽毛とは違って前足の指と後ろ足にかけて発達した薄い膜です。先には手の指(かぎ爪)もついています。そして向こうを透かしてみると幕である証拠がみられます。



口にはくちばしがみられません。これもほ乳類の特徴ですね。となると歯は、どうなのでしょう。休むときには後ろ足を木の枝や岩に引っかけて逆さ吊りになって休みます。めったに見られませんが、糞や尿は、どのようにするのでしょうか。



よく観察してみるとほかのほ乳類と似たところが、たくさん見つかります。(翼手目コウモリ科)

この夏休み、久しぶりに動物園に行ったという人もいるのではないのでしょうか。小学校の頃までは遠足で行ったという人もいるはず。課題を持ってじっくりと見ることで、あるいはスタッフに質問することで、また別の使い方があると感じ取ることができましたか。皆さんは動物園を卒業したわけではありません。たとえば単に「きりんさん」から「マサイキリン」の「シゲジロウ」でこんな生活に便利なようにこんなからだをしているんだ、とみることができると、もっと楽しく役に立つ使い方ができますよ。わかったことは文章、スケッチ、デジカメなどで記録して学校にレポートしてくださいね。では、また。